

スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業  
(平成 29 年度)

業務実績報告書

平成 30 年 3 月

## 無断複製等禁止の標記について

委託事業に係る成果報告書の表紙裏に，次の標記を行うものとする

本報告書は，スポーツ庁のスポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究委託事業として，凸版印刷株式会社が実施した平成 29 年度「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

従って，本報告書の複製，転載，引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。



Ⅱ 構成	36
1. 調査研究会議	36
2. WG会議	37
Ⅲ スケジュール	37

## 第1章：事業概要

### I 趣旨

オリンピック・パラリンピック教育を通じて、国民一人一人がスポーツの価値ならびにオリンピック・パラリンピックの意義に触れることは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた全国的な機運の醸成のみならず、それ以降の東京大会の有形・無形のレガシー創出に向けた極めて重要な取組となる。

スポーツ庁においては、平成28年7月、スポーツ庁長官の下に設置された有識者会議において、「オリンピック・パラリンピック教育の推進について」と題する報告をとりまとめ、オリンピック・パラリンピック教育の推進のための全国的な体制の整備や各教育機関における教育の推進について提言を行っている。

同報告書では、学校教育のみならず、社会教育に関して、我が国における各博物館等において有するスポーツ・アーカイブをはじめ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や我が国で開催された国際競技大会等のアーカイブの構築やその利活用は、大会後もオリンピック・パラリンピック教育に継続して取り組むために重要であり、またそのための活用を促進することとしていることを受けて、本調査研究事業を行うこととする。

### II 目的

平成28年度・29年度「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業」を推進し、国内のスポーツ系博物館等が保有する主な資料の保存及び利用状況等を把握した上で、有識者も交え、関連資料のネットワーク化やデジタルアーカイブ化について検討し、貴重な資料の利用方法等について検討することとする。

## 第2章：主要なスポーツ系資料の 保存・利用状況等に関する調査研究の実施報告

### I 調査の概要

スポーツ系資料のデジタルアーカイブ化と利活用を促進するため、国内における主要なスポーツ系資料の保存や利用状況等に関する調査研究として、調査の目的別に①ヒアリング調査、②利活用調査、③国外事例のWeb調査を実施した。

表1【平成29年度調査内容】

	ヒアリング調査	利活用調査	Web調査
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の所在把握</li> <li>資料の管理状況把握</li> <li>資料の保存、利用状況把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階から完成段階までで苦労した点や課題等の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開されている資料情報、整理基準や分類基準、公開基盤等の把握</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の所蔵調査</li> <li>資料の整理、分類</li> <li>資料の利用状況</li> <li>資料の利活用</li> <li>スポーツ・デジタルアーカイブが構築された際の連携等について</li> <li>組織体について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階について</li> <li>作業段階について</li> <li>完成段階について</li> <li>スポーツ・デジタルアーカイブについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイト構成や資料分類基準の傾向</li> <li>資料の分類、分量、言語などについて</li> <li>検索項目、API連携について</li> <li>コンテンツ公開について</li> </ul>
調査機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌オリンピックミュージアム</li> <li>日本オリンピック委員会</li> <li>日本障がい者スポーツ協会</li> <li>野球殿堂博物館</li> <li>日本体育大学図書館</li> <li>朝日新聞社</li> <li>笹川スポーツ財団</li> <li>パナソニックセンター</li> <li>ミズノスポーツロジーギャラリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>來田享子</li> <li>渡邊英徳</li> <li>成瀬和弥</li> <li>日本スポーツ振興センター</li> <li>日本サッカー協会</li> <li>日本バレーボール協会</li> <li>日本体育協会</li> <li>国立スポーツ科学センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英国公文書館 The Olympic and Paralympic Record the National Archives</li> </ul>
成果物	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリング調査結果報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利活用調査結果報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Web調査報告書</li> </ul>

## Ⅱ ヒアリング調査について

スポーツ系資料の所在及び管理状況の把握，及び，デジタルアーカイブ化と利活用を促進するため，今後のネットワーク構築の中核拠点として想定できる外部機関を調査対象として選定し，所蔵資料，資料の整理・分類および利用状況の調査を実施した。

### 1. 調査対象機関

- ・札幌オリンピックミュージアム
- ・日本オリンピック委員会
- ・日本障がい者スポーツ協会
- ・野球殿堂博物館
- ・日本体育大学図書館
- ・朝日新聞社
- ・笹川スポーツ財団
- ・パナソニックセンター
- ・ミズノスポーツロジィギャラリー

### 2. 調査方法

ヒアリング調査の対象機関には，「調査依頼状」を作成し，調査目的や概要の説明を行い，協力を要請した。資料情報の来年度以降の公開を見据え「使用許諾同意書」を準備し，必要に応じて許諾を得る手立てを準備した。

インターネット等で公開している情報については，事前にデスクリサーチを行い，「ヒアリングシート」を事前に送付することで，各対象機関の負担軽減と調査の効率化を図り，資料の所蔵状況や整理分類状況，利用状況，利活用，スポーツ・デジタルアーカイブが構築された際の連携等，組織体について詳細にヒアリングを実施することとした。

## ヒアリング項目

### 1) 資料の所蔵調査

#### (ア) 公文書資料について

- ・どの大会に関する資料がありますか
- ・オリンピック・パラリンピック関係の資料はありますか
- ・記録が変更になった場合（※）、どのような対応（訂正等）を取っていますか  
※後日の失格等
- ・(スポーツ関連の) 資料点数はどの程度ありますか  
大会毎の点数を把握していれば、それぞれについて教えてください
- ・主な公文書資料はどのようなものがありますか  
計画書，議事録，報告書，名簿，設計図面 など
- ・” 1 点 ” の基準を設けていますか

#### (イ) 出版物（書籍，雑誌）資料について

- ・どの大会に関する資料がありますか
- ・オリンピック・パラリンピック関係の資料はありますか
- ・記録が変更になった場合（※）、どのような対応（訂正等）を取っていますか  
※後日の失格等
- ・(スポーツ関連の) 資料点数はどの程度ありますか  
大会毎の点数を把握していれば、それぞれについて教えてください
- ・主な出版物（書籍，雑誌）資料はどのようなものがありますか  
ガイドブック，パンフレット，週刊〇〇 など
- ・” 1 点 ” の基準を設けていますか

#### (ウ) 視聴覚資料（写真，映像，音声など）について

- ・どの大会に関する資料がありますか
- ・オリンピック・パラリンピック関係の資料はありますか
- ・記録が変更になった場合（※）、どのような対応（訂正等）を取っていますか  
※後日の失格等
- ・(スポーツ関連の) 資料点数はどの程度ありますか  
大会毎の点数を把握していれば、それぞれについて教えてください
- ・主な記録資料はどのようなものがありますか  
紙焼き写真，ネガ・ポジ，8mm フィルム，ビデオテープ，音声テープ，CD-R など
- ・” 1 点 ” の基準を設けていますか

(エ) 実物資料について

- ・どの大会に関する資料がありますか
- ・オリンピック・パラリンピック関係の資料はありますか
- ・記録が変更になった場合（※）、どのような対応（訂正等）を取っていますか  
※後日の失格等
- ・(スポーツ関連の) 資料点数はどの程度ありますか  
大会毎の点数を把握していれば、それぞれについて教えてください
- ・主な実物資料はどのようなものがありますか  
ポスター、メダル、賞状 など
- ・” 1 点 ” の基準を設けていますか

(オ) その他

- ・文書資料、記録資料、実物資料以外の資料がありますか
- ・カテゴリを分ける分類表はありますか  
※スポーツ系資料の位置づけを教えてください
- ・所蔵しているスポーツ資料で最も貴重であると思う資料は何ですか
- ・貴重であると思う理由は何ですか

2) 資料の整理・分類

(ア) 資料目録について

- ・収蔵資料に対する目録は存在しますか
- ・資料目録は、資料毎（実物資料、文書資料、記録資料、公文書）に異なった内容になっていますか
- ・資料目録の目録項目はどのような内容になっていますか
- ・目録項目はフリーワード入力ですか、プルダウンやチェックボックス等の選択方式でしょうか  
混在する場合、その割合はどの程度でしょうか
- ・原資料の外観がわかる画像を資料目録に登録していますか
- ・資料目録と原資料との突合せはどのようにしていますか  
原資料にユニーク番号を添付、ロケーション情報で紐付け など
- ・資料目録はどのようなツールで管理していますか  
Excel, FileMaker, 専用システム など
- ・資料目録へのアクセス制限を設けていますか
- ・資料目録の追記・修正等の変更はどの程度の頻度で行っていますか

(イ) 資料の受入れ状況について

- ・ 収蔵資料はどのように保存していますか  
資料毎に異なる場合は、それぞれについて
- ・ 収蔵資料を保存している環境（温室度等）を教えてください
- ・ 収蔵資料の保存方法はどのようなものでしょうか  
梱包材包装，段ボール梱包，棚， など
- ・ 所蔵資料の廃棄・処分は行っていますか  
行っている場合，どのようなルールになっていますか

3) 資料の利用状況

(ア) 収蔵資料の公開状況について

- ・ 収蔵資料の公開方法(展示，開架式，閉架式)とその割合はどの程度でしょうか
- ・ 資料の公開可否についてルールを設けていますか  
ルールを設けている場合，どのような内容でしょうか
- ・ Web 公開を行っていますか  
Web 公開を行っている場合，公開している情報は目録のみか，または写真等の画像を含みますか
- ・ Web 公開にあたっての権利処理を行っていますか  
行っている場合，進捗状況はどの程度でしょうか
- ・ 権利のあるものとないものをどのように区別していますか
- ・ 教育目的の資料公開を行った事例・実績はありますか

(イ) 資料の問合せ状況について（貸し出し依頼等）

- ・ 収蔵資料に対する問合せはありますか
- ・ 問合せをしてくる機関はどのようなところがありますか  
※大学教員，スポーツ学科の学生，自治体，マスメディア（テレビ制作会社，新聞社），個人 等
- ・ 問合せの対象となるものはどのような資料ですか
- ・ 問合せ件数は，どの程度ですか（〇件／月）
- ・ 貸し出し時のルールはありますか
- ・ 貸し出しは有償ですか，無償ですか
- ・ 貸し出し履歴は残していますか

#### 4) 資料の利活用

##### (ア) 収蔵資料を利用した利活用について

- ・展示・公開以外で収蔵資料を利用した利活用（スポーツイベント、教育、啓発活動 等）を実施していますか  
実施している場合は下記質問についてご回答願います
- ・スポーツイベントの開催概要（回数、規模、参加者数、内容 等）を教えてください
- ・スポーツイベントを開催するにあたり、課題と感じていることはありますか
- ・スポーツイベントを開催する上で、理想と考えているのはどのようなことですか
- ・教育（オリパラ教育 等）の実施概要（回数、規模、参加者数、内容 等）を教えてください
- ・教育（オリパラ教育 等）を実施するにあたり、課題と感じていることはありますか
- ・教育（オリパラ教育 等）を実施する上で、理想と考えているのはどのようなことですか
- ・啓発活動の実施概要（回数、規模、参加者数、内容 など）を教えてください
- ・啓発活動を実施するにあたり、課題と感じていることはありますか
- ・啓発活動を実施する上で、理想と考えているのはどのようなことですか
- ・上記以外の利活用を実施している場合は記載願います

##### 5) スポーツ・デジタルアーカイブが構築された際の連携等について

- ・所蔵資料のデジタル化を実施していますか
- ・デジタル化を実施している場合、実施済の数量、今後実施予定の数量を教えてください
- ・デジタル化を実施していない場合、実施していない（出来ない）理由を教えてください
- ・データ連携を行うことは可能でしょうか（API連携など）
- ・所蔵情報を利用する際の利用規約を教えてください

##### 6) 組織体について

- ・組織体（ネットワーク）に属していますか  
IOC、スポーツ系、博物館系 など
- ・属している場合、会員になっていることによるメリットはなんですか

### 3. 調査結果

以下に調査結果の概要を記す。

#### ①札幌オリンピックミュージアム

##### 1) 資料の所蔵状況

- ・1972年札幌オリンピックの実物資料を中心に所蔵
- ・全資料あわせて約40,000点
- ・実物資料を中心に所蔵

##### 2) 資料の整理・分類

- ・専用システムにて収蔵資料を管理しているが、資料毎に項目を分けてはいない
- ・収蔵品の多くは展示ではなく収蔵されており、段ボール箱単位で保管管理
- ・個人による寄贈が多いが、展示に必要な他国開催のものは、購入することもある

##### 3) 資料の利用状況

- ・ホームページ上に収蔵品検索システムを公開
- ・2026年札幌オリンピック・パラリンピック招致の影響で問合せ増加傾向
- ・資料の貸し出しは基本的に行わない方針

#### ②日本オリンピック委員会

##### 1) 資料の所蔵状況

- ・国際総合競技大会（オリンピック、アジア、東アジア（夏季のみ）、ユニバーシアード、ユースオリンピック等）に関連する資料を中心に収蔵
- ・所蔵資料点数は不明

##### 2) 資料の整理・分類

- ・目録は存在しない
- ・文書類は書棚、実物資料は段ボールにて収蔵

##### 3) 資料の利用状況

- ・画像掲載を主体にWeb公開（所蔵資料の画像ではなく、大会に関する選手等の写真）
- ・所蔵資料に関する問合せはほとんどない

#### ③日本障がい者スポーツ協会

##### 1) 資料の所蔵状況

- ・体系的に収集・保管しているわけではないが、パラリンピック関連の資料を所蔵
- ・所蔵資料は段ボール300箱程度

## 2) 資料の整理・分類

- ・資料は倉庫業者にて保管しており，管理箱の目録はあるが資料毎の目録は存在しない

## 3) 資料の利用状況

- ・所蔵資料の公開はしていない
- ・貸し出し，閲覧希望には個別対応
- ・2020年東京大会が決まってから問合せが増加(1964年東京パラリンピック大会資料等)

### ④野球殿堂博物館

#### 1) 資料の所蔵状況

- ・野球に関する資料を中心に所蔵
- ・実物資料点数は約40,000点あるが，オリンピック関連となると少ない(約450点)
- ・出版物は約50,000冊所蔵

#### 2) 資料の整理・分類

- ・博物館資料，図書資料でそれぞれ目録が存在(Excel管理)
- ・博物館資料は収蔵庫(135㎡)にて分類別に収蔵
- ・図書資料は書架で中性紙に入れて収蔵
- ・一部貴重資料はセミエアタイト金属ケースにて保管

#### 3) 資料の利用状況

- ・博物館資料は2000点程度展示
- ・図書資料は閉架式であり，口頭で問合せを確認し，対象図書を探している
- ・一部用具の画像をWeb公開している
- ・オリンピック関係資料についての問合せが2020東京オリンピック決定前後に急増

### ⑤日本体育大学図書館

#### 1) 資料の所蔵状況

- ・オリパラに関わらず，体育・スポーツ分野の図書を中心に収蔵
- ・実物資料および電子データはほとんど存在しない

#### 2) 資料の整理・分類

- ・紙媒体の出版物とマイクロ，視聴覚資料については図書館専用システムOPACにて管理
- ・貴重書類は保存箱，通常資料は配架または自動化書庫コンテナに収納

#### 3) 資料の利用状況

- ・ OPAC にて目録情報を公開
- ・ 学外からの問い合わせ：約 10 件／月，学内からの問い合わせ：約 50 件／月
- ・ 来館利用の場合は，利用者登録を行った者に対し，学外者利用内規の範囲で貸出可

## ⑥朝日新聞社

### 1) 資料の所蔵状況

- ・ バックナンバー（図書，雑誌，記事）および写真を中心に所蔵
- ・ 五輪関連写真を約 66,000 点，五輪関連映像を約 40 点所蔵

### 2) 資料の整理・分類

- ・ 新聞記事は「記事データベース」，画像データは「写真データベース」に収録
- ・ 書籍，雑誌，公文書は棚に保管
- ・ 紙焼き写真，フィルムは袋に小分けし専用の箱に収蔵

### 3) 資料の利用状況

- ・ 新聞記事は商用 DB にて契約先の公共図書館や大学・高校の図書館，企業等で有料公開
- ・ 写真は外販用のサイトで公開し，ID を取得すれば検索閲覧は無料
- ・ 記事と画像は外販しているため，客先からの問合せは頻繁にある

## ⑦笹川スポーツ財団

### 1) 資料の所蔵状況

- ・ 調査報告書や書籍・雑誌を中心に所蔵
- ・ 図書：3,053 点，雑誌：3,875 点，資料：604 点を所蔵

### 2) 資料の整理・分類

- ・ 「Enju」という図書館システムで管理
- ・ 管理 ID（バーコード）を原資料に貼付している

### 3) 資料の利用状況

- ・ 図書室を公開し，書籍・雑誌はほとんど閲覧できるように展示している
- ・ web サイト上で，目録情報と表紙画像を検索・確認できるようになっている
- ・ 貸し出しはしておらず，来館してもらいコピーで対応

## ⑧パナソニックセンター

### 1) 資料の所蔵状況

- ・ 資料収集がメインではなく，資料を活用したワークショップ等のオリパラ教育を実施

## 2) 資料の整理・分類

- ・博物館で持っているような収蔵品はないため、収蔵品リストも存在しない

## 3) 資料の利用状況

- ・IOC から購入したトーチはパナソニックセンター1 階で展示している
- ・ワークショップや教育プログラムに用いる資料は、都度収集している

## ⑨ミズノスポーツロジィギャラリー

### 1) 資料の所蔵状況

- ・過去に製造した製品を中心に収蔵
- ・所蔵資料点数は不明

### 2) 資料の整理・分類

- ・目録は存在しない
- ・ギャラリーに展示しているものと、社内の棚で保管しているものがある

### 3) 資料の利用状況

- ・製品は常に公開、出版物は社員が閲覧できる状態だが閲覧はほとんどない
- ・Web 公開は行っていない
- ・ギャラリーで展示しているものは持ち出し不可、その場での写真撮影は可能

## 4. 調査からの考察

調査の結果から、各機関において図書資料、雑誌資料、博物館資料（公文書）、実物資料等を保有しているが、その形態の違いからそれぞれ個別の目録で管理していることが判明した。そのためスポーツ系資料の情報を共有することや、横断的に情報を管理・提供できる仕組みがないという現状にある。

資料の管理方法については、専用システムを活用している機関もあれば、エクセルデータ等での目録管理や、そもそも目録自体がない機関も存在する。また、専属の職員が資料を整理している機関もあるが、目録は整理を目的とした項目設定になっており、利活用についてはほとんど想定されていない。また、今回の調査対象とした朝日新聞社のように民間企業等の有料コンテンツとして一般に利用できるものは、著作権処理は済んでいるが、被写体のプライバシー・肖像権・パブリシティ権に関しては、原則として利用者が被写体あるいは撮影者から使用許諾を得ることを利用条件としている場合がほとんどである。そのためスポーツ系資料を利用するためには、資料の所在場所の特定や権利関係の制限等の制約があり、自由な利活用を妨げる大きな要因になっていることがわかった。

### Ⅲ 利活用調査について

利活用を実施したいくつかの外部機関を調査対象として選定し、そこで使われた資料の収集・利活用方法や、どのような課題が発生し、それをどのような手法・手続きで解決したか等について検証するための利活用モデルケースの調査を実施した。

#### 1. 調査対象機関

- ・ 来田享子（中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授）
- ・ 渡邊英徳（首都大学東京 システムデザイン学部 准教授）
- ・ 成瀬和弥（筑波大学 体育系 助教）
- ・ 秩父宮記念スポーツ博物館
- ・ 日本体育協会
- ・ 日本サッカー協会
- ・ 日本バレーボール協会
- ・ 国立スポーツ科学センター

表 2 【調査対象機関別の利活用目的および事例】

No.	対象	目的	事例
1	・ 来田享子 （中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授） ・ 渡邊英徳 （首都大学東京 システムデザイン学部 准教授）	教育	・ 研究の遂行および論文の執筆（来田委員） ・ 学部・大学院における教育（来田委員） ・ 大学におけるスポーツ・ミュージアムの展示（来田委員） ・ 東京五輪アーカイブ1964－2020（渡邊委員）
2	・ 成瀬和弥（筑波大学 体育系 助教） ※パナソニックセンター東京で実施のプログラム	CSR活動	パナソニックセンター東京のActive Learning Campでのプログラム 「トーチの花を咲かせよう！！」
3	・ 秩父宮記念スポーツ博物館 ・ 日本体育協会	啓発事業	・ 巡回展事業（秩父宮記念スポーツ博物館） ・ 100周年記念事業（日本体育協会）
4	・ 日本サッカー協会 ・ 日本バレーボール協会 ・ 国立スポーツ科学センター	競技力向上	・ サッカー歴史新聞をつくろう（日本サッカー協会） ・ ユニフォーム・ボールの進化を調べてみよう（日本サッカー協会） ・ 技術力向上、対戦チーム対策（日本バレーボール協会） ・ スポーツ映像データベースシステム「JISS nx」 （国立スポーツ科学センター）

#### 2. 調査方法

利活用調査の対象機関には、「調査依頼状」を作成し、調査目的や概要の説明を行い、協力を要請した。資料情報の来年度以降の公開を見据え「使用許諾同意書」を準備し、必要に応じて許諾を得る手立てを準備した。

インターネット等で公開している情報については、事前にデスクリサーチを行い、「利活用モデル調査表」を事前に送付することで、各対象機関の負担軽減と調査の効率化を図り、いくつかの目的別（教育、啓発事業、競技力向上、新製品開発など）の利活用事例について、構想段階から完成段階までで使われた資料の収集・利活用方法や、どのような課題が発生し、それをどのような手法・手続きで解決したか等苦労した点や課題等のヒアリングを実施することとした。

## ヒアリング項目

### 1) 構想段階

- ・どのような目的／場面で、どのようなヒトを対象に、  
どのようなモノを作ろうとしたか／どのようなコトを行おうとしたか

### 2) 作業段階

- ・どのような材料を必要としたか
- ・どのように材料を探したか。材料を探すにあたって、どのような課題が発生したか
- ・探した材料を使用するにあたって、どのような課題が発生したか。その課題のなかに権利処理関係はあったか
- ・何らかの課題（障害）のために、使用することを断念した資料等はあるか  
(断念した場合)
  - ・断念した理由は何か。また、断念したことで、構想したモノ／コトの内容を修正しなければならなくなったか
- ・オリンピック・パラリンピック関係資料を使用する場合、IOC・IPCの許可を取る上で、申請にあたり、どのような処理を行ったか（例 企業のロゴを消す 等）

### 3) 完成段階

- ・どのようなモノができたか／どのようなコトを行ったか  
(コトの場合)
  - ・どのように保存したか／デジタル化したか
- ・何らかの制約によって、活用範囲が狭まっているか  
(誰に対しては使用してはいけない、〇〇の目的のために使用してはいけない、  
〇〇目的にのみ使用が可能 等)
- ・インターネット上で公開することは可能か。その場合、公開の範囲は決まっているか
- ・構想段階から完成段階に至るまで、どの程度の日数を要したか

### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・上記を進める上で、スポーツ・デジタルアーカイブが存在した場合どのような効果を望むか。また、どのような事が期待できるか

### 3. 調査結果

#### ① 來田 享子 中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授

事例 : 【教育目的における資料の活用例】

- ・ 研究の遂行および論文の執筆
- ・ 学部・大学院における教育
- ・ 大学におけるスポーツミュージアムの展示

#### 1) 構想段階

- ・ 研究目的として、研究者を対象に学会報告・論文の作成
- ・ 教育目的として、専門学部の学生・大学院生を対象に授業資料・教材の作成
- ・ 展示目的として、学生および一般を対象にスポーツミュージアムを構築

#### 2) 作業段階

- ・ 文献 DB, 博物館・美術館等の目録 DB, 競技団体等の公式 HP, 研究者向け DB の検索, 博物館・図書館等の実地調査, 対象とする研究に関連する人物・遺族への聞き取りで材料を探した。特に写真や実物史料に関しては, 検索可能な DB 等がなく, どこに何があるか等の情報がほとんど得られない。また, 所蔵されている場所に関する情報そのものが集約されておらず, 学会等における人的ネットワークを介してたどっていかざるを得ない。目録がないため, 結局, 何日もかけて所蔵地での調査が必要となる場合がある。著名選手の遺族等が貴重資料を保管していても, 信頼できる寄贈先に関する情報がなく, 当惑している場面に出会ったことがある。
- ・ 研究者としての利用であるため, OSC での資料調査や教育・研究利用に制限がかかったことはない。なお, 学会や NPO 法人日本オリンピック・アカデミー等の広報物に使用する場合は, 五輪マーク部分が不完全にしか表示されないようレイアウトで工夫するなどした経験はある。

#### 3) 完成段階

- ・ 出版物, 電子ジャーナルの作成
- ・ パワーポイント教材, 指導した大学院生による発表資料や論文の作成
- ・ 展示, 図録の作成

#### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・ 検索閲覧, 画像使用, 動画使用, 実物資料の借用申請機能があること

## ②渡邊 英徳 首都大学東京 システムデザイン学部 准教授

事例 :【教育目的における資料の活用例】

東京五輪アーカイブ1964-2020

### 1) 構想段階

- ・朝日新聞との共同研究の一環として、東京五輪1964年大会の写真資料についてのデジタルアーカイブを作成した。目的は、50年前（プロジェクト開始時点）の東京五輪の記憶遺産の価値を、2020年の大会を迎える現在の日本、特にこれからの社会を担う若者たちに伝え、未来に継承することである。それまでに実績のあった「ヒロシマ・アーカイブ」の手法を応用して、デジタルアースに写真のカメラアングルを再現しつつマッピングしたコンテンツを作成することにした。また、こちらも「ヒロシマ・アーカイブ」の手法に倣って、高校生たちに当時の大会関係者へのインタビューを行ってもらい、オーラルヒストリーを収録したものも掲載することにした。

また、それと平行して、朝日新聞フォトアーカイブの写真を活用した制作ワークショップを、首都大学東京・慶応大学・宮城大学・早稲田大学で実施。この取り組みは、オリンピックイヤーに前線に立つであろうクリエイターの卵たちに、過去の資料の価値を知ってもらうことを目的に開催した。

### 2) 作業段階

- ・必要な材料としては、写真資料、五輪関係者のオーラルヒストリーである。
- ・朝日新聞フォトアーカイブの写真は、共同研究パートナーとして自由に活用することができた。ガバメント側の資料も必要だったので、学生たちと東京都公文書館を訪れ、資料の閲覧とスキヤニングを行なった。この点、東京都立の大学教員であったことが幸いした。ただしその他の都の施設、例えば江戸東京博物館等にも相談に行ったが、その後、立ち消えになり、朝日新聞と東京都公文書館の資料のみが掲載されている。高校には知り合いを辿って声をかけ、工学院大学附属高等学校、聖徳学園高校の二校がプロジェクトに参加した。その後、川淵三郎氏（当時、首都大学東京理事長）を皮切りに、二校の生徒たちによって証言収集が進んでおり、今年度も実施予定である。
- ・写真の撮影位置の推定に手間を要した。権利処理関係については、肖像権処理が必要なものについては公開を断念したものの、その他は特に不都合はなかった。
- ・現時点ではあくまで研究の一環なので、特に処理をしていない。都のオリパラ局にも相談したが、特に問題ないであろうとの回答であった。実際に東京都庁での展示会も行なわれている。ただし、朝日新聞社と相談の上「オリンピック」を名称に使用しない等の配慮をしている。今後、実用化のフェーズに入った際には、別途処理が必要になるかも知れない。なお、朝日新聞社は2020年オリンピックの公式スポンサーであるため、そうした際にも手続きを進めやすいと予測している。

### 3) 完成段階

- ・東京五輪 1964 年大会の写真資料についての Web サイトを構築。
- ・高校生によるオーラルヒストリーの収集。
- ・初期バージョンの公開までは約半年かかった。その後のバージョンアップと、証言収集や課題などの活動は継続中である。

#### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・教育研究目的・フェアユースであれば IOC などの縛りを受けないこと。また、CC-BY あるいは CC0 など、使いやすいライセンスにもとづいて資料を利用できること。特に前者については、権利関係で怯えが生じないようにする配慮が必要かと思う。
- ・キーワード・カテゴリ検索のみではなく、資料どうしの関連性、時空間情報など、多角的な検索と閲覧ができること。
- ・資料の活用事例としての「研究」「作品」などのショーケースを備えていること。私は研究者・クリエイターなので、コンテンツを自ら作り、自ら発信できる。とはいえ実社会においては、そうではない方が大半である。そうしたユーザに、資料の価値と魅力を伝えるショーケースが必要かと思う。もし可能であれば、国立国会図書館で開発中のジャパンサーチのように、ユーザがキュレーションし、発信できる仕組みを備えたいところ。それらが他のユーザの活用指針になる。
- ・資料を使った「活動」の事例を紹介するコーナーがあると良いと思う。実際に活動した方々にとってはモチベーション向上・支援の獲得につながり、これから活動する方々の参考になる。

### ③成瀬 和弥 筑波大学 体育系 助教

事例 : 【教育目的における資料の活用例】

パナソニックセンター東京の Active Learning Camp でのプログラム

「トーチの花を咲かせよう！！」

#### 1) 構想段階

- ・オリンピックの理念であるオリンピズムについて理解を促す目的で、小学校 4～6 年生、中学生を対象に、ワークショップを実施。

#### 2) 作業段階

- ・インターネットにより画像を検索。ワークショップ用体験プログラムは、筑波大学大学院芸術学専攻の学生に作成を依頼。
- ・利用したい画像があったが、著作権の有無が不明だったため断念し、イラストにより代替。Google Map も利用。
- ・権利関係の処理はパナソニック社で行なってもらったため、製作者は自由に創作する

ことができた。

### 3) 完成段階

- ・パナソニック社に「トーチの花を咲かせよう！！」を納入した。このプログラムをパナソニックセンター東京のスタッフがオリンピック教育として実施している。
- ・構想から完成まで約3ヶ月を要した。

### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・オリンピック教育のプログラム（授業案）を作成する際、非常に役に立つと思われる。テーマ（学習目標）を達成するために、具体的なエピソードやモノを探すことに多くの時間を要する。現状では、写真や記録などを見つけるために、長時間インターネットサーフィンをしたり、映像からのキャプチャーや記事のスキャンなどで対応している。その際、権利処理の問題にまでほぼ対応できない。厳密に、IOCやJOC、アスリートなどに権利関係の確認をすることは、授業など実施できない。
- ・スポーツ・デジタルアーカイブという、網羅的にスポーツ情報を紐付けしたシステムがあるならば、教師の負担は飛躍的に軽減し、また、より充実した教育プログラムを構築することができるとと思われる。

## ④秩父宮記念スポーツ博物館

事例：【啓発目的における資料の活用例】

オリンピック・パラリンピック関連の巡回展事業

### 1) 構想段階

- ・文化庁補助事業の一環として、現在休館中の秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵する資料を有効活用し、東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運と、スポーツ全般への興味・関心を高めることを目的として企画された。特に、地方へ出向いて、地域の方々へ1964年東京オリンピックを中心としたオリンピック大会の実物資料を紹介し、東京大会の機運を高めることを主眼としている。
- ・来場対象は、子どもから大人までを想定。

### 2) 作業段階

- ・オリンピック・パラリンピック大会やスポーツ全般に係る実物資料、競技大会の様子や選手、実物資料の写真パネル、映像コンテンツ（新規製作ではなく、既存のもの）、体験的造作物（記念撮影コーナー、メダル体験など）を必要とした。
- ・オリンピック資料は、当館が収蔵する資料リストや画像より出展資料を検討・選定し

た。パラリンピック資料は JPC へ相談し、パラサポートセンターを紹介いただいた。

- ・当館が収蔵している資料でも、所有権の確認が必要（寄託品について、寄託者の出展許諾が必要）。過去の競技大会の著作権については、大会組織委員会のような時限的な組織に帰属しているものの権利処理はどのような取り扱いになるのかわからない場合がある。
- ・寄託品の寄託者から巡回展への出展許諾が取れない場合や、資料の所有権がわからない資料については、出展を断念する。

所有権者、著作権者が誰か不明瞭で、権利処理ができずに出展を断念することがある。

- ・東京 2020 組織委員会、JOC の許可についてはオリンピックの商標権の問題があるため、展覧会開催概要、巡回展のタイトル、展示内容、ポスター・チラシの確認している。

### 3) 完成段階

- ・展覧会の実施は、会期：30 日～40 日。
- ・実施報告書の作成
- ・1 会場につき要する日数は、構想：1 年、企画：10 か月、資料選定：5 か月、展示設計：4 か月、造作：3 か月、輸送・展示作業：1 週間、会期：30 日～40 日。

### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・当館だけではなく他館の収蔵品も踏まえた、横断的な展示企画が立てられる。
- ・借用依頼先が探しやすくなる。

## ⑤日本体育協会

事例：【啓発目的における資料の活用例】

100 周年記念事業

### 1) 構想段階

- ・日本体育協会・日本オリンピック委員会が創立以来 100 年に渡って、日本スポーツの推進に寄与してきた歴史を国内外に示すため、日本体育協会・日本オリンピック委員会役職員や加盟団体、日本体育協会・日本オリンピック委員会のステークホルダー（学識経験者、公認スポーツ指導者、スポーツ少年団、大会開催都市、スポンサーなど）、スポーツ愛好者を対象として 100 周年記念事業を実施。

### 2) 作業段階

- ・日本体育協会 25 年・50 年・75 年史や、日本体育協会・日本オリンピック委員会関連の事業報告書、理事会議事録、写真、映像等を必要とした。
- ・日本体育協会資料室を探したが、資料室にない資料は状況に応じて大学図書館などを

利用した。

- ・写真や映像は、当時の状況もあり、保管状況が芳しくないものは使用できなかった。
- ・写真や映像は肖像権の問題があり、それをクリアできないものは使用を断念した。
- ・IOC へは JOC を通じて確認をお願いした。例えば、DVD には過去のオリンピック映像を盛り込んでいるが、DVD の作成目的や配布先などを細かく申請していた。あくまで無償配布であることで、権利の使用料を抑えているはずだが、有償での配布や有償での上映を予定すると、権利料が高くなると聞いた。

### 3) 完成段階

- ・100 周年記念式典やシンポジウムを実施。
- ・100 周年記念誌、100 周年記念 DVD、100 周年記念切手を作成。
- ・記念事業の構想から終了まで、概ね 4 年間を要した。

### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・100 周年記念誌などは、広く閲覧いただける機会になるので、日本体育協会や日本オリンピック委員会の歴史や活動を知っていただく機会になると考える。日本体育協会・日本オリンピック委員会の創立は、それまで学校単位等で発展していた日本のスポーツを、組織的に一体化して発展させる契機になったと思うので、両団体の歴史を知ることが、日本のスポーツの歴史をふりかえる上でも有効ではないかと考える。
- ・100 周年記念誌作成時含め、通常業務においてスポーツ系資料を調べる機会があり、その際にデジタルアーカイブが存在していれば資料の所在情報や内容等の調査にかかる時間が短縮できるため、業務効率化が図れると考える。

## ⑥日本サッカー協会

事例 :【啓発・競技力向上目的における資料の活用例】

- ・サッカー歴史新聞をつくろう
- ・ユニフォーム・ボールの進化を調べてみよう

### 1) 構想段階

- ・小学校 1～6 年生を対象に、夏休みの自由研究を手助けするために自由研究イベントを実施。

### 2) 作業段階

- ・サッカー全般の資料、ワールドカップに関する資料を必要とした。
- ・ミュージアムでアプルーバルを得ているため、特に問題はない。映像資料についても館内で閲覧できる。オリンピックの映像は殆どない。

- ・館内のベルリン，東京，メキシコ等，歴史上のオリンピック資料展示はあるが，写真資料の展示である。

※自由研究イベントにはオリンピック資料は使用していない。

FIFA に対しては，全てアプルーバルを得ている。また写真権利も，JFA，Jリーグにて権利を持つものを使用している。

### 3) 完成段階

- ・作成者本人が学校に作品を提出。
  - ※作成物は作成者本人が持ち帰るため，サッカー協会には残らない。
- ・新聞，ワークシート，トークゲスト選定に約1ヶ月を要した。

### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・日本サッカー協会（サッカーミュージアム）内にある資料のみを使用しているため，本イベントに関してはスポーツ・デジタルアーカイブが存在したとしても，特にかわりはない。

## ⑦日本バレーボール協会

事例：【競技力向上目的における資料の活用例】

技術力向上，対戦チーム対策

### 1) 構想段階

- ・試合にて最適対応策を練るために，情報分析を実施。

### 2) 作業段階

- ・試合中のパフォーマンスデータ，試合映像，選手のメディカルデータおよびコンディショニングデータなどを必要としている。
- ・選手の生体データは定期的に取得。映像は国際試合毎に録画している。Vプレミアリーグの試合映像は8チーム間でシェアされており，協会も閲覧できるようになっている。過去の映像については，国立スポーツ科学センターの「JISS nx」というシステムで管理している。

※JISS nxは国立スポーツ科学センター(JISS)利用競技団体向けシステム。

JISS 内映像データベースに登録された大会映像，練習映像の閲覧，ダウンロードを行うことが可能。(このシステムを利用できる方は，各競技団体が認めた選手，コーチ，関係者のみとなっているため，一般の方は利用不可)

### 3) 完成段階

- ・データバレーを活用した日本代表チームを築いた。
- ・「JISS nx」に載せてある映像のうち、試合映像に関しては公開を検討している。ただし権利問題があるため、そこがクリアにならないと難しい。

#### 4) スポーツ・デジタルアーカイブについて

- ・選手に関する情報、チームに関する情報などが横串で検索できることを期待している。

### ⑧国立スポーツ科学センター

事例 :【競技力向上目的における資料の活用例】

スポーツ映像データベースシステム「JISS nx」

※「JISS nx」は国立スポーツ科学センターが開発・運用しているスポーツ映像データベースであり、PC やスマートフォンなどの閲覧デバイスとインターネット接続環境があれば、世界中どこからでも競技映像へアクセス可能

#### <特徴>

- ・映像検索機能によって、大量の映像の中から閲覧したい映像を簡単に探すことが可能
- ・映像の画質を自動調整し、モバイル回線や海外の通信速度の遅い環境でも再生が可能
- ・登録されたユーザのみが閲覧でき、グループを作成して閲覧権限の設定が可能

#### <活用例>

- ・体操：自身の競技映像の振り返り、海外選手の映像を参考に新技の研究
- ・卓球：海外選手など対戦相手の映像から特徴等を事前研究

#### 1) 構想段階

- ・許可された選手、コーチ、スタッフ等を対象に、競技力向上、対戦相手の事前研究等を目的としてスポーツ映像の保管／検索閲覧支援システムを構築。

※現在のユーザ数：約 3,700 人、現在の登録コンテンツ数：約 420,000 件

#### 2) 作業段階

- ・過去の大会映像、選手自身の練習映像等を必要としている。
- ・映像ファイル、メタ情報などのコンテンツ登録やユーザ管理は各競技団体が対応しているため、国立スポーツ科学センターはシステム管理を担当。

#### 3) 完成段階

- ・スポーツ映像データベースシステム「JISS nx」を構築。検索項目は競技団体や種目に

よって異なる。希望する該当部分数秒間だけを切り出して閲覧することが可能。閲覧時、簡単にコマ送り、スローモーション、巻き戻し等が可能。スマホアプリ化しユーザビリティを強化。スーパーユーザのみに与えられた権限であるが、競技種目を越えた横断検索も可能。

- ・利用者は各競技団体が認めた選手、コーチ、関係者のみとしているため、一般公開はしていない。

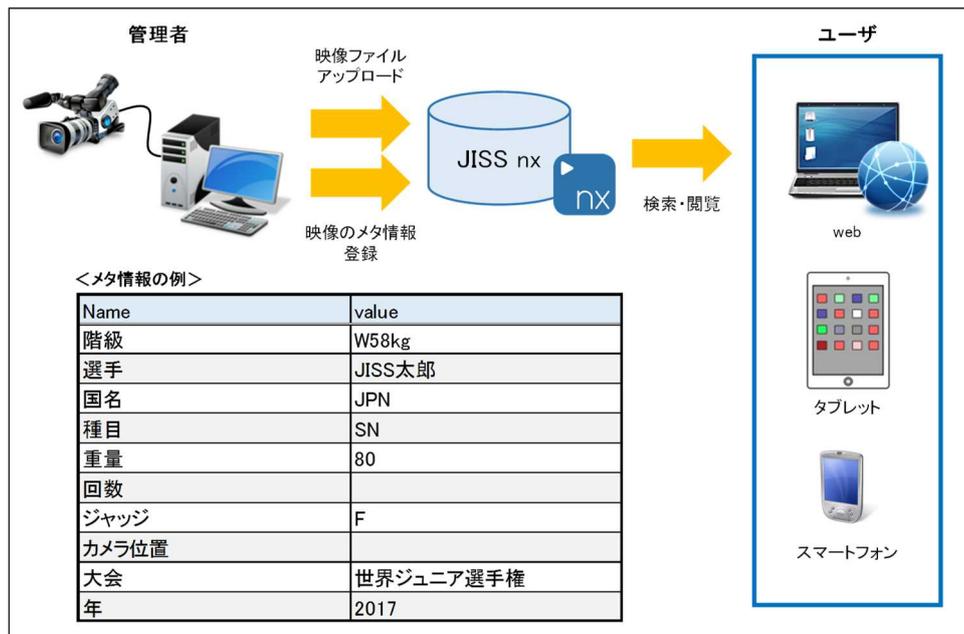


図1【映像アップロードとメタ情報登録の流れ】

#### 4. 調査からの考察

調査の結果から、「教育」および「啓発事業」を目的としたイベントおよびプログラムに関しては、これからの社会を担う学生を対象としているものが多く見受けられた。そのため、活用された資料は文書資料よりも、実物資料や画像・映像資料等のビジュアルでわかりやすい資料が多く利用される傾向にある。しかしながら、そうした資料をイベントや教育プログラムの目的で利用する場合、自機関が所蔵する資料のみでは完結できないことが多く、必要な資料の所在調査を実施するところから始める必要がある。また、このように探し出した資料（主に画像、映像）についても著作権や肖像権などの問題がクリアにならず利用を断念する場面も多くあることがわかった。

こうした利活用調査の結果から見えてくる課題として、

- ・スポーツ系資料に関する所蔵情報が共有できるような情報の共通化やネットワーク化などの環境整備ができていない。

- ・利用したい資料があったとしても、権利関係の確認作業の煩雑さ、問合せ先の不明瞭なことなどが原因で権利関係がクリアできずに利用されにくい状況にある。

この2点が利活用を妨げる大きな要因となっている。

以上のような状況のため、貴重なスポーツ系資料の収集・保存および利活用において、スポーツ系資料の所蔵情報を共通認識で共有できる仕組み「スポーツ・デジタルアーカイブ」によって、さまざまな課題解決への糸口につながると考えられる。

また、権利関係の課題については、CC-BY あるいは CC0 などのオープンライセンスを採用することで都度権利処理を行う必要がなくなり、画像や動画等資料の利用が容易になることで、スポーツ教育の普及やオリンピック・パラリンピック大会の機運醸成への活用が促進されることが期待できる。

## IV Web調査について

先進的な取り組みを行っている下記機関を調査対象として、公開されている資料情報、整理基準や分類基準、公開基盤等について、Web上で調査を実施した。

### 1. 調査対象機関

- ・英国国立公文書館 「The Olympic and Paralympic Record」

トップページ URL : <http://www.nationalarchives.gov.uk/olympics/>

### 2. 調査方法

対象機関の Web サイトマップから、サイト構成や資料分類基準の傾向を読み取り、サイト内の構造を把握した後、資料情報の概要・種類、各記事の大項目/中項目/小項目の分類、資料の分量、取扱い言語などを明らかにする。

### 3. 調査結果の概要

以下に、調査結果の概要を記す。

#### ①トップページについて

トップページには情報量が少なく、『Timeline』と『2012 activities』がメインである。

「Travel through time」は「Timeline」と同じページに遷移する。

また、「Explore activities for 2012」も「2012 activities」と同じページに遷移する。

1) 言語 : 英語

2) サイト構成 : 227 ページ

The National Archives

Menu

Search our website...

You are here: [Home](#) > The Olympic and Paralympic Record

# THE OLYMPIC AND PARALYMPIC RECORD

## Timeline

## 2012 activities

The National Archives holds a range of records on the modern Olympic and Paralympic Games and Cultural Olympiad, from 1896 to the present. We have made these available online for the first time, providing you with access to this rich resource on sporting and cultural history.

### Travel through time

Our timeline includes selected records from our collections, as well as additional resources for each year of the modern Games. Browse our timeline to preview and download our records.

### Explore activities for 2012

We have brought together a picture of the sporting, cultural and other activities which happened across the UK to present a record of what happened before, during and after London 2012.

### Our related links

- View our [bookshop](#) to find publications relating to sports and social history
- See our [census records, 1841-1911](#)
- Browse and purchase pictures in our [image library](#)
- See our [research guide](#) on sport history, the Olympics and Paralympics
- Search for records in [Discovery](#) and find out about [new sport collections](#) in archives across the UK

### Share the Olympic and Paralympic Record

[f](#) [t](#) [+](#)

46

Sharing will require cookies. [Show details](#)

[Acknowledgements](#)

[The National Archives' takedown and redress policy](#)

### Olympic websites

- [British Olympic Association](#)
- [British Paralympic Association](#)
- [International Olympic Committee](#)
- [International Paralympic Committee](#)
- [Department for Culture, Media and Sport](#)

The National Archives is not responsible for content on external websites.

### Send me The National Archives' newsletter

A monthly round-up of news, blogs, offers and events.

図2【トップページ】

②サイトツリー構造について

Web サイトのツリー構造は下記図のとおり。

- 1) Web サイトツリー構造は第 3 階層までを表示
- 2) 構成ページは、第 4 階層まで存在する  
第 4 階層は、第 3 階層の各ページに存在するコンテンツである。
- 3) 第 2 階層の①Timeline, ②2012activities, ③Acknowledgements は Web サイトトップページの①～③より遷移する。

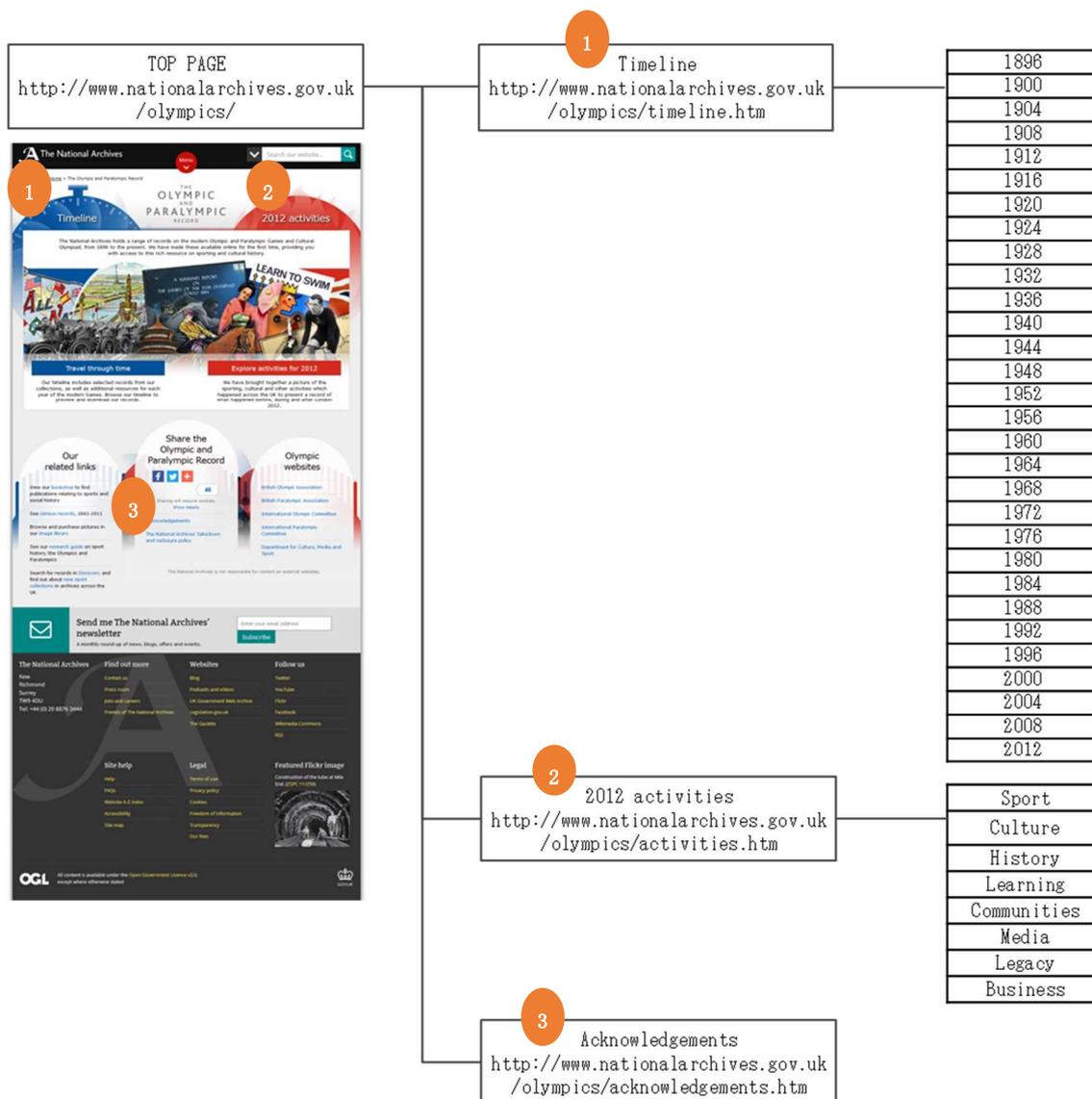


図 3 【サイトツリー構造】

### ③Webサイトの特徴

#### 1) 「Timeline」 ページについて

- ・「Timeline」は、1896年の第1回アテネ大会から2012年の第30回ロンドン大会まで、オリンピック大会毎に資料がまとめられている
- ・冬季オリンピックに関するコンテンツは存在していない
- ・大会毎のページに掲載されているコンテンツ数は極めて少なく（平均10点程度）、掲載コンテンツの種類としては公文書のような紙資料が多く、大会リザルトや競技中の写真・映像等資料は存在しない
- ・各資料は、有料DL（ダウンロード）もしくは無料DLができるようになっている  
有料DLは全て38.75\$で販売されている

#### 2) 「2012 activities」 ページについて

- ・「2012 activities」は、2012年第30回ロンドン大会に関わるWebサイトをアーカイブしている。そのアーカイブしたWebサイトを「Sport」「Culture」「History」「Learning」「Communities」「Media」「Legacy」「Business」の8項目に分類・整理している
- ・8つの項目それぞれに関連する「Official London2012 website」の当時の競技日程や記録関係の情報へのアクセス、および「競技団体」「関連団体」「博物館」「競技施設」などの外部Webサイトへ誘導するリンクが貼られている
- ・各機関がアーカイブしている個々のメタデータやデジタルデータに直接API連携する仕組みにはなっていないと思われる

#### 3) コンテンツ公開について

- ・The National Archivesの全てのコンテンツがOpen Government Licence※ v3.0に従っているため、The Olympic and Paralympic RecordもOpen Government Licence v3.0に従いコンテンツを公開している
- ・Open Government Licence v3.0に従っているため、The National ArchivesのThe Olympic and Paralympic Recordのコンテンツに関して、コピー、印刷、公開、配布、情報発信の自由、及びコンテンツの改編も無料で行える

#### ※ Open Government Licence (OGL)

英国政府発行の著作物に対する著作権ライセンスであり、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとの互換性もある。

OGLは、誰でも許諾された作品のコピー、出版、頒布、送信、適応を行い、商業的および非商業的の両方で利用することが可能。

#### ④ 「Timeline」について e b サイトの特徴

Timeline ページは 1896 Athens から 2012 London までのオリンピックに関する記録の一部が表示されている。各資料にはユニーク番号が振られている。例えば、「Dispatches from British minister in Athens」のユニーク番号は FO 286/434/1 であるが、「Cycle race Iliffe & Son Coventry, 1893.」のユニーク番号は COPY 1/108 (220)となっている（番号の体系ルールは不明）。各資料は有料 DL, 無料 DL ができるようになっており, 有料 DL は全て 38.75\$で販売されている。



図 4 【1896 年 Athens ページ】

1896 Athens ページと紐づけられているコンテンツ数は 7。

ページ説明：最初の近代オリンピック開催の都市。National Archives のオリンピック資料の収集は、1896 年のアテネから始まる。

表3【1896年 Athens ページのコンテンツ一覧】

No.	名称	カテゴリ	有料 DL	無料 DL
1	Dispatches from British minister in Athens. (アテネの英国大臣からの派遣)	書類		○
2	The famous ancient stadium, Athens, where the Olympian Games were held in 1896. (1896年にオリンピック大会が開催された有名な古代スタジアムの写真)	写真 書類		○
3	Cycle race Iliffe & Son Coventry, 1893. (競輪 Iliffe&Son Coventry)	絵	○	
4	Frank Shortland, Cuca Cocoa cycling challenge cup champion. (Frank Shortland 氏)	写真	○	
5	Athletics meeting, 1892. (1892年陸上競技)	写真	○	
6	Runner James Kibble, 1891. (1891年 James Kibble 選手)	写真	○	
7	Novelties in athletic costumes, Lloyd Attree & Smith, 1894. (ノベルティ)	絵	○	

⑤ 「2012 activities」 について

2012 activities ページは、2012London オリンピックに係る web サイトアーカイブが 8 つの項目に分かれて表示されている。各項目には、2012 年当時の web サイトがアーカイブされ、競技団体、関連団体への web サイトリンクが貼られている。

8 つの項目は

- 1) Sport (Sporting activities across the UK for 2012)
- 2) Culture (Cultural activities across the UK for 2012)
- 3) History (Detailing the history of the Olympic and Paralympic movement)
- 4) Learning (Encouraging learning across the UK for 2012)
- 5) Communities (Community engagement across the UK for 2012)
- 6) Media (Media coverage of London 2012)
- 7) Legacy (Creating legacies for London 2012)
- 8) Business

1) Sport (Sporting activities across the UK for 2012)

Sport の項目には、2012 年当時のスポーツ関連団体等の web サイトがアーカイブされている。

※ただし一部 web サイトはアーカイブ化されていないものがある。

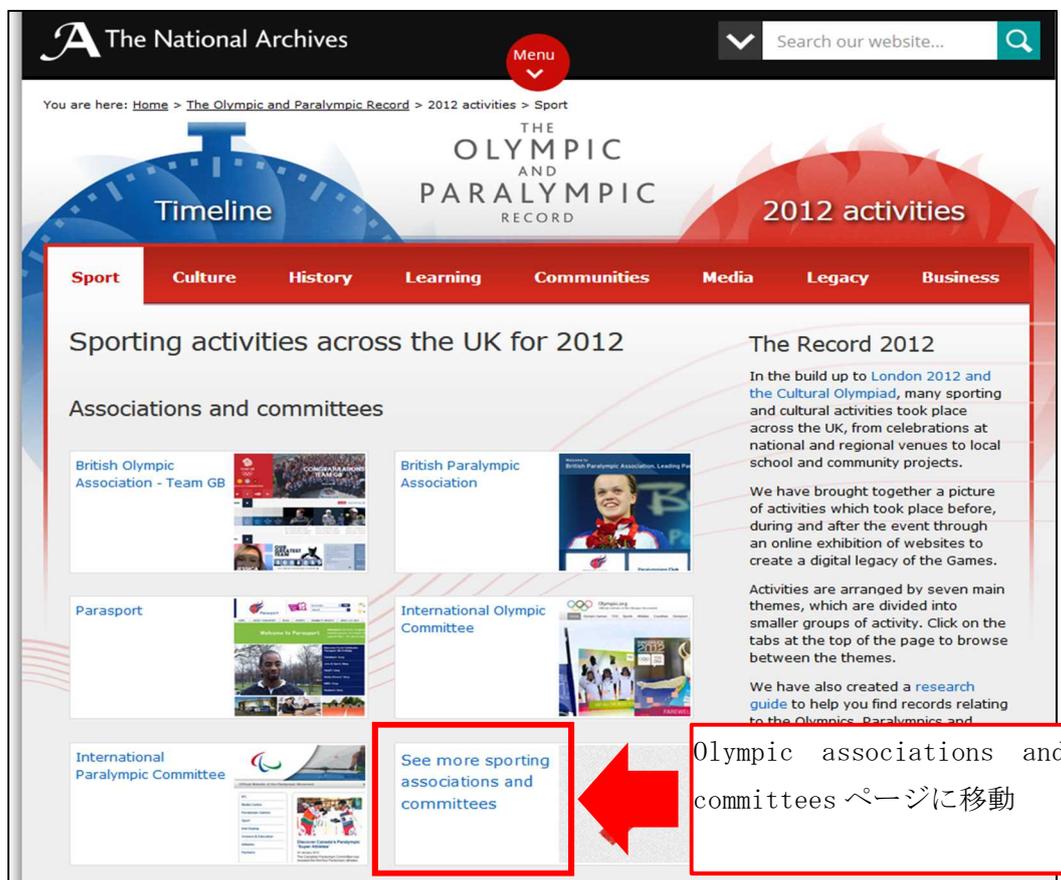


図 5 【Sport (Sporting activities across the UK for 2012) ページ】

⑥ 「Acknowledgements」について

Acknowledgements(謝辞)ページは下記イメージの通りである。オンラインで資料を公表する許可を得た団体とのリンク先が表示されている。

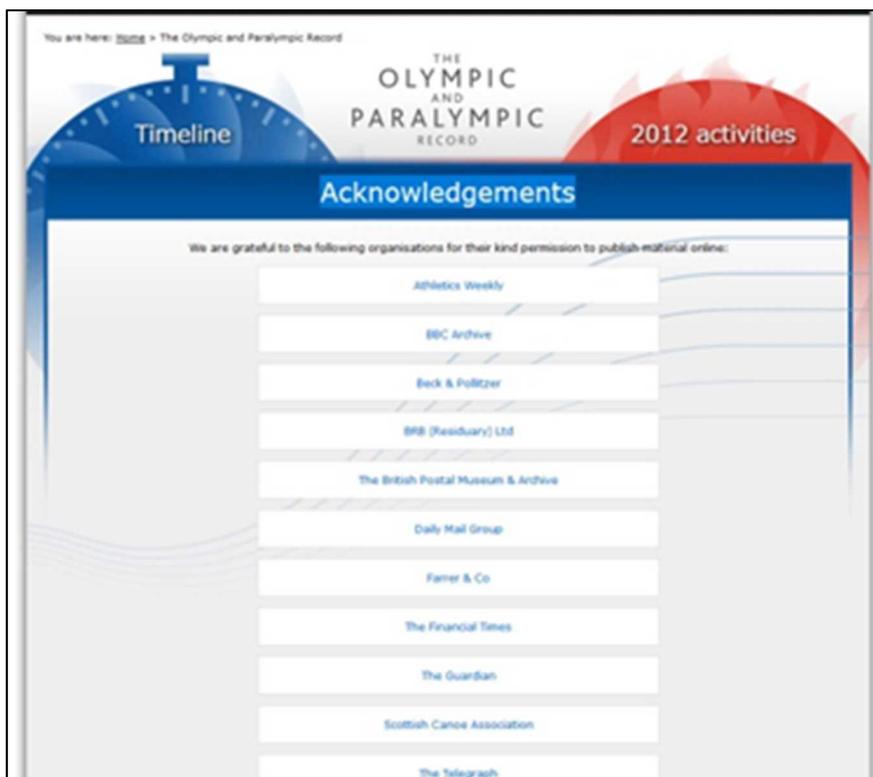


図 6 【Acknowledgements (謝辞) ページ】

表 4 【Acknowledgements リンク先】

No	web サイトタイトル	URL
1	Athletics Weekly	<a href="http://www.athleticsweekly.com/">http://www.athleticsweekly.com/</a>
2	BBC Archive	<a href="http://www.bbc.co.uk/archive/">http://www.bbc.co.uk/archive/</a>
3	Beck & Pollitzer	<a href="http://www.beck-pollitzer.com/">http://www.beck-pollitzer.com/</a>
4	BRB (Residuary) Ltd	→リンク切れ
5	The British Postal Museum & Archive	<a href="https://postalmuseum.org/">https://postalmuseum.org/</a>
6	Daily Mail Group	<a href="http://www.dailymail.co.uk/home/index.html">http://www.dailymail.co.uk/home/index.html</a>
7	Farrer & Co	<a href="http://www.farrer.co.uk/">http://www.farrer.co.uk/</a>
8	The Financial Times	<a href="https://www.ft.com/">https://www.ft.com/</a>
9	The Guardian	<a href="https://www.theguardian.com/international">https://www.theguardian.com/international</a>
10	Scottish Canoe Association	<a href="http://canoescotland.org/">http://canoescotland.org/</a>
11	The Telegraph	<a href="http://www.telegraph.co.uk/">http://www.telegraph.co.uk/</a>
12	Thomas Cook Archives	<a href="https://www.thomascook.com/thomas-cook-history/">https://www.thomascook.com/thomas-cook-history/</a>
13	University of Westminster Archive Services	<a href="https://www.westminster.ac.uk/about-us/in-the-community/archive-services">https://www.westminster.ac.uk/about-us/in-the-community/archive-services</a> →Page not found

## V まとめ

本調査事業で実施した調査結果から見えてきたスポーツ系資料に関する現状は下記のとおりである。

### 1. スポーツ系資料の収集・保存・管理状況

スポーツ系資料を保有している機関ごとに資料の所蔵傾向が異なるため、対象資料の範囲が広範囲であり、目録情報および管理方法もさまざまであることがわかった。例えば、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館ではスポーツ関連の実物と図書資料を幅広く所有しており、目録もほぼ整備されているが、歴代の担当者が整理分類作業を苦勞して行いようやく現状の目録分類と目録項目までたどり着いている。それでも実物資料と図書資料とで目録項目が違い、複数の目録が存在している。また、札幌オリンピックミュージアムでは1972年札幌オリンピック冬季競技大会の実物資料を中心に所蔵し、専用システムにて収蔵管理を目的とした目録項目となっている。こうした現状もあり、スポーツ系資料の収集・保存・管理においては、各機関内の目録管理にとどまっている傾向があり、「どこに何の資料があるか」という所蔵情報が一般的に共有されていない現状がある。

また実物資料においては、時限的な大会運営組織からの引継ぎ資料や故人の遺した記念品等は、散逸の危機にある。さらに2020東京大会に向けて全国各地で開催される自発的な啓発活動や、民間でボトムアップ的に発生するイベント等の記録もイベント終了後に散逸の可能性があるといった懸念事項が明らかになった。例えば1964年東京オリンピック・パラリンピック競技大会当時のオリンピック・パラリンピックに関する競技や人物の周辺にあったであろう情報を当時の記録・記憶が失われないうちに、どのようなものがあるかを把握する必要がある。

### 2. スポーツ系資料の所蔵情報について

資料管理方法については、現在、スポーツ系資料をデジタル化するために必要かつ統一された整理・分類ルールが存在していないことが本調査で明確になった。そのため、所蔵情報として体系的に整備されている所蔵機関が少ない状況にある。また、整備されている所蔵機関でも独自の整理分類方法で運用されており、所蔵情報について広く一般に公開されずに館内利用にとどまっている。

こうしたことから、スポーツ系資料を保有する機関が整理分類できる明確な共通ルールや共通認識でのメタデータ項目の設定など、所蔵情報として体系的に整備する必要がある。

### 3. スポーツ系資料の利活用について

これまでの一般的なデジタルアーカイブ構築においては、教育・研究目的ではいくつか利活用事例もあるが、利活用のイメージが検討されないまま構築されることが多かったた

め、一般に活用されにくいものになってしまう傾向があった。本調査事業では、スポーツ系資料を利用者別に利活用目的を可能な範囲で想定し、利用者にとってどのようなアーカイブ構築が望まれるかの検討を行った。 ※【参考資料3】参照

しかし現状では、オリンピック・パラリンピック教育およびスポーツ振興・普及啓発等の目的で過去に制作されたスポーツに関するデータベースや web サイト等のスポーツ系資料を利活用したいが、様々な障害があり活用が進んでいない状況がある。

利活用が進んでいない現状には、利用許諾の問い合わせにおいて、「そもそもどこに問い合わせればよいか分からない」といった声が多い。また、利用における著作権許諾の無料・有料に限らず、アスリート等への肖像権の許諾申請について利用者が行うことがほとんどである。さらにオリンピック・パラリンピックに関する商標利用、大会の写真や映像の利用全てにおいて IOC や IPC への許諾確認が必要となっている。こうしたことが利活用を妨げる要因となっていることがわかった。

このようなスポーツ系資料の利活用を妨げる課題をクリアするために、利用許諾における窓口の明確化や確認方法のルール化などが求められる。

さらに、スポーツ・デジタルアーカイブ構築にあたり、著作権・肖像権等の権利関係に配慮したうえで公開範囲と二次利用条件を決定する必要がある。その中で活用が最大限行われるよう、可能な限り自由な二次利用を可能にするオープン化が望まれる。特にメタデータは、国際的な流通・活用の観点から、クリエイティブ・コモンズが作成した著作者が自身の著作物の著作権を放棄するためのルール「CC0」の採用を検討することが重要である。

## 第3章：主要なスポーツ系資料の 保存・利活用状況に関する調査研究協力者会議の実施

主要な資料のデジタル化やネットワーク化に関する課題を検討する「スポーツ・デジタルアーカイブの利活用に関する調査研究会議」及び「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業ワーキンググループ会議（以下WG会議）」の会議を運営した。

### I 会議における主な検討事項

#### 1. 調査研究会議

- ・スポーツ資料の保存に関する基本的な論点の整理  
(保存対象物及び重要資料の定義など)
- ・主要スポーツ資料の全体像の確認及び重要資料の保存・利用状況の整理
- ・アーカイブ化にあたっての基本ルールの検討  
(特に写真・動画を中心とした保存・利活用に係る権利関係の整理など)
- ・アーカイブ化に関する技術面での論点の検討
- ・スポーツ・デジタルアーカイブの在り方についての検討

#### 2. WG会議

- ・保存対象物及び重要資料について
- ・公開および利活用にかかる権利関係について
- ・技術面（デジタル化，システム化）について
- ・スポーツ・デジタルアーカイブの利活用方策について

### II 構成

#### 1. 調査研究会議

スポーツ系資料の収集・整理，データ作成，システム構築に携わった経験保有者や，スポーツ系資料に限らず様々な資料のデジタルアーカイブの知見を有する有識者（計 10 名）で構成することとした。

佐藤 佳子	東京都総務局総務部 東京都公文書館 課長代理
杉本 重雄	筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授
龍村 全	龍村法律事務所 弁護士
田原 淳子	国土舘大学 体育学部こどもスポーツ教育学科 教授
成瀬 和弥	筑波大学 体育系 助教

新名佐知子	独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館・図書館
松原 茂章	株式会社フォート・キシモト ゼネラルマネージャー
村上 洋樹	公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部 ミュージアムグループ J F A 100 周年記念事業委員会
來田 享子	中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授
渡邊 英徳	首都大学東京 システムデザイン学部 准教授

## 2. WG会議

調査研究会議委員の中から、分類・整理、権利処理、利活用等のそれぞれのテーマに詳しい有識者（計 5 名）を選定し、構成することとした。

杉本 重雄	筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授
成瀬 和弥	筑波大学 体育系 助教
新名佐知子	独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館・図書館
來田 享子	中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授
渡邊 英徳	首都大学東京 システムデザイン学部 准教授

## III スケジュール

調査研究会議は、平成 28 年度に 1 回、平成 29 年度に 2 回開催した。WG 会議は平成 29 年度に 4 回開催した。

第 1 回調査研究会議	平成 29 年 3 月実施
第 2 回調査研究会議	平成 29 年 6 月実施
第 3 回調査研究会議	平成 29 年 11 月実施

第 1 回WG会議	平成 29 年 4 月実施
第 2 回WG会議	平成 29 年 8 月実施
第 3 回WG会議	平成 29 年 10 月実施
第 4 回WG会議	平成 30 年 2 月実施